

令和6年度 教科研修会Ⅱに向けた授業の構想

美術科

1 美術科の研究テーマ

創造的に考えを巡らせる力を高める学習の在り方

2 美術科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿)

- ・感じ取った美しさを表すために、水彩絵の具の混色や重色の効果を生かして着彩方法を考えている姿 (1 学年、表現領域)
- ・客観的な見方や捉え方をふまえて、生活を彩る布に描かれているものやその配置などの表現の工夫について考えを整理している姿 (1 学年、鑑賞領域)
- ・抽象的な概念を表すために、複数の材料の性質や特徴を生かしてその組合せを考えたり、形のデフォルメを考えたりしている姿 (2 学年、表現領域)
- ・作品を描いた時代や社会的背景、作者の作風をふまえて、作者の心情や表現の意図について考えを整理している姿 (2 学年、鑑賞領域)
- ・自分を表すために、様々な表現方法や材料の特性、そこから感じたことを効果的に表現に生かせるように構想している姿 (3 学年、表現領域)
- ・目的と造形的な美しさとの調和のとれたデザインにするために、環境や相手との関わりから形や色彩、素材、配置を総合的に考えている姿 (3 学年、表現領域)

3 題材名・学年 「自分を表す」・3年

4 題材の概要 (全 14 時間扱い 本時は第 11 時)

題材の学習問題

表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。

題材展開

時間	学習活動
第 1 時 ～ 第 3 時 (小題材)	【題材の学習問題】 表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。 ◆ <u>写実的に自分を表す方法を知り、写実表現の特性を理解する</u> 【学習問題】 自分をどのように写実的に描き表せばよいのだろうか。 【学習課題】 補助線や顔のパーツの位置の比率を目安にしながらかスケッチしよう。
第 4 時 ～ 第 6 時 (小題材)	◆ <u>抽象的に自分を表す方法を知り、抽象表現の特性を理解する</u> 【学習問題】 自分をどのように抽象的に描き表せばよいのだろうか。 【学習課題】 火、水、木、風に自分を見立てて、抽象的に表してみよう。 【学習課題】 紙を用いて、「○○な自分」を、立体的に表してみよう。
第 7 時 ～ 第 13 時 (本時は 第 11 時)	◆ <u>自分を表す構想の仕方や表現方法、描画材を選び、創造的に表す</u> 【学習問題】 自分を表すにはどのように構想すればよいのだろうか。 【学習課題】 自分に合った方法や手順を決めて、構想しよう。 【学習問題】 表したい自分をどのように着彩すればよいのだろうか。 【学習課題】 試し塗りで、複数の色合いや描画材から感じたことを比較しよう。(本時)
第 14 時	◆ <u>完成した互いの作品を鑑賞して表現のよさや美しさを感じ取る</u> 【学習問題】 友は表したい自分を、どのように表したのだろうか。 【学習課題】 作品の形や色合い、材料、表現方法から友の表現の意図と工夫点をまとめ、伝え合おう。

美術科学習指導案

令和6年7月3日(水) 5校時 美術室

授業学級 3年D組(41名)

授業者 田村 淳樹

- 1 題材名 「自分を表す」
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
表したい自分をどのように着彩すればよいのか考える場面で、試し塗りをして複数の色合いや描画材から感じたことを比較することを通して、それらを効果的に表現に生かせる着彩方法を構想することができる。 【A表現(1)ア(ア)、[共通事項](1)ア】
- 3 題材の学習問題：表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。
- 4 本時の位置(全14時間中 第11時)
前時：主題を基に、絵の背景や立体の土台の効果を考えて表した。
次時：決め出した描画材で絵や立体の作品を着彩していく。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を確認し、本時の見通しをもつ。	ア 私は写実的に自分を描き、背景に今の自分を抽象的に表したものを組み合わせた。勉強を頑張っている情熱と、悩んでいる内面の弱さを着彩で表したいが、どのように着彩していけばよいのか考えてみたい。	・絵や立体で表してきた自分をどのように着彩していくのか問う。 ・アのような反応から、学習問題を設定する。	10分
		学習問題：表したい自分をどのように着彩すればよいのだろうか。 イ 水彩絵の具は淡い表現ができて優しさや穏やかさを感じる。クレヨンには色がはっきりとした表現で強さを感じる。 ウ 同じ描画材でも、色合いを変えることで、感じ方が変わってきそう。いきなり着彩していくのは心配だから、試し塗りをし、着彩方法を比較しながら考えていきたい。	・異なる描画材や、同じ描画材で、色合いを考えて描いた示範作品を提示し、表現の特徴や、そこからの感じ方の違いについて問う。 ・イやウのような反応から、学習課題を据える。	
展開	2 着彩を試行する。	エ 頑張りたい情熱の赤色を、水彩絵の具やクレヨン、色鉛筆など、様々な描画材で試してみよう。トレーシングペーパーで写し取れば、何度でも試すことができそう。 オ 情熱の赤色は、クレヨンで表すとはっきりした感じになった。自分の内面の弱々しさを表すには、水彩絵の具の淡い色合いが向いていると思う。 カ 友は、色鉛筆で力加減を変えて濃淡をつけていた。色合いや描画材の違いだけでなく、同じ描画材の同じ色合いでも、濃淡を変えることで強調できそう。	・着彩を試すことを繰り返すことができるように、トレーシングペーパーで透かしてなぞる試し塗りの場を設ける。 ・比較できるように、二つ以上の描画材で試し塗りすることを確認する。 ・カのような、同じ色合いや描画材でも、描き方の工夫で表現に変化をつけている姿を全体で紹介する。	25分
	3 試し塗りしたものを比較し、整理する。	キ 私は、勉強を頑張っている情熱的な自分を強調するために、赤のクレヨンを使うことで、より強く自分の情熱を表せようと思う。 ク 絵の具の淡い青で、弱々しさも表せそうだから、水分量を調節しながら、水彩絵の具も併用しながら使って着彩していこう。	・試し塗りしたものを比較して感じたことをトレーシングペーパーに記入し、主題とどのようにつながるかを問い、表現に生かせる着彩方法を考える場を設ける。	
終末	4 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめる。	ケ 同じ色合いでも、描画材を変えることで表し方に変化をつけることができることに気付いた。 コ 同じ描画材でも、色鉛筆やクレヨンで力加減を変えたり、絵の具の水分量変えたりすることで、感じ方が変わった。 サ 今日の試し塗りに、自分の主題を表すための色合いや描画材が決まってきた。グラデーション等の表現も試してみたい。	・本時の学習を振り返り、表したい主題とそれを表す着彩方法について、気付いたことをまとめるように促す。 色合いや描画材から感じたことを、着彩の表現に生かそうとしているか、振り返りの記述から読み取る。	10分